



教科学習におけるデジタル教材の活用

近年、学校の情報機器整備の流れを受け、教科学習においてデジタル教材を活用した授業が行われるようになってきました。よりわかりやすく共感できる授業の構築を目指すために、黒板と教科書に加え、どのようなメディアが活用できるかが模索されています。すでに小学校では導入・活用が進みつつあり、中学校でも導入を望む声が多く聞かれています。

そのような中で開発されたのが光村「国語デジタル教科書」です。教科書紙面や動画などの資料を、パソコンとプロジェクトア等を通して拡大提示できる指導用のソフトウェアで、「話す・聞く」編と古典編の二つをご用意しました。ここでは、デジタル教科書の主な特長と使い方を紹介します。

教科書を忠実に再現し学習情報を共有する

生徒の手元には教科書があり、その中の文章を読んで、話し合いや言語活動が進んでいきます。その際、教師の指示や生徒同士の意見交流は、声の情報として伝わります。どの部分を言ったのか、どこを読んだのかの発言なのか、といった情報の共有は、教科書という媒体を中心に伝わるものとして考えられてきました。さて、実際の教室ではどうでしょうか。学習課題を設定するとき、話し合い活動のポイントを確認するとき、教師の指示は全員に的確に伝わっているのでしょうか。

国語デジタル教科書は、全員で一つの教科書画面を見ながら学習を進めるために開発されました。前述のような場合に、拡大した教科書画面に線を引いたり書き込みをしたりしながら、学習情報を声(音声)と視覚の二つの方法で伝えることができるので、よりわかりやすい授業が展開できるのです。

教材に即した映像や資料を提供

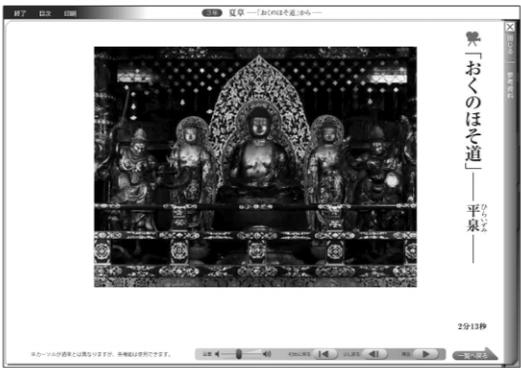
教科書の「話す・聞く」教材は、活動場面の例をト書きの形で掲載しています。話し合いの場面などは、その文章を読んでイメージしなければならず、教科書だけでは声の大きさや発言者の表情などの情報は伝わってきません。

古典教材では、時代や場所の情報が多く掲載されていますが、作品の理解をより深めるためには、背景にある知識や映像をさらに多く提供してほしいという声が寄せられています。

デジタル教科書では、これらの要望に対応した映像や資料を豊富に提供しています。しかも、教科書と連動したコンテンツですので、授業の中ですぐに活用することができます。



▲ 活動のポイントを映像からつかむ



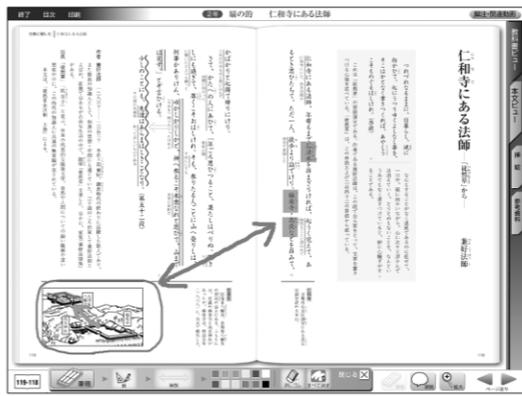
▲ 古典作品の背景を映像で理解する

大事なポイントを拡大する

デジタル教科書では、本文や挿絵だけをそれぞれ拡大投影することができます。本当に大事なポイントを説明したり、本文の内容を挿絵で確かめたりするときには、生徒の視線を集中させることが大切です。手元の教科書よりも、拡大投影された紙面を見ることで、生徒の意識は集中していきます。

朗読などの音声情報を使う

デジタル教科書では、音声の情報を搭載しています。古典編の朗読機能は鑑賞だけでなく、聞かせたいところから自在に朗読を流すことができるので、暗唱の練習など部分的に読む場合にも適しています。また、「話す・聞く」編にある「聞き取りトレーニング」は、音声教材から聞き取ったことを、収録されているワークシートに書き取る活動を想定して作成しました。



▲ 教科書画面に書き込みする



▲ 注目したい箇所を拡大する

【「話す・聞く」編・収録教材】

1年 発見したことを伝えようースピーチの会を開く
話し合ってみようーグループ・ディスカッション
言葉を探検するー調べたことを発表する

2年 「聞く生活」を考えようー目的に応じて聞く
提案のしかたを工夫しようープレゼンテーション
小さな「物語」を探るーインタビューで取材する
相手を意識して伝えようーわかりやすく話す

3年 話し合ってみようーパネル・ディスカッション

【古典編・収録教材】

3年 音読を楽しもう いろは歌
蓬萊の玉の枝ー「竹取物語」からー
今に生きる言葉

2年 音読を楽しもう 枕草子
扇の的ー「平家物語」からー
仁和寺にある法師ー「徒然草」からー
漢詩の風景

3年 音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序
君待つとー万葉・古今・新古今ー
夏草ー「おくのほそ道」からー
学びて時にこれを習ふー「論語」からー

※本製品の詳細は、光村図書ホームページをご覧ください。